

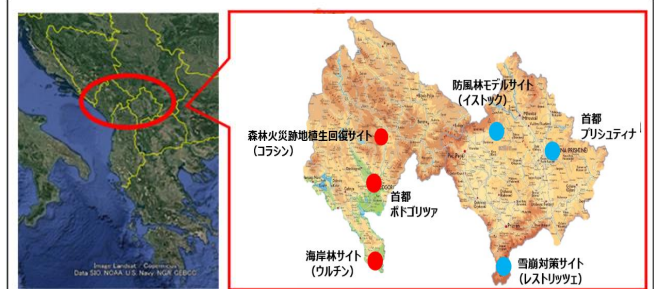
NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through
National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Feb 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS 及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

Vol8では、2025年1-7月の活動を報告いたします。



コソボ・モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

地域セミナー2025 @ コソボ



2025年5月12日から15日まで、コソボのプリズレンで地域セミナーが開催され、モンテネグロ、コソボ、アルバニア、北マケドニア、ボスニア・ヘルツェゴビナの西バルカン5カ国の主要関係者や専門家が一堂に会しました。このイベントの目的は、災害リスク削減（DRR）と生態系に基づくアプローチにおける地域協力を強化することでした。

4日間にわたるセミナーでは、参加者は、国境を越えた知識とベストプラクティスの共有を促進することを目的とした一連のプレゼンテーション、ディスカッション、現地視察に参加しました。

モンテネグロとコソボの代表団は、このプロジェクトが過去4年間に達成した成果を紹介しました。その中には、コソボ国家森林火災情報システム（NFFIS）およびモンテネグロ森林火災情報システム（MEFFIS）の開発と運用、火災後の森林の回復、Eco-DRRの取り組みなどが挙げられます。これらの事例は、テクノロジーと自然に基づくソリューションの統合が、災害に対する回復力をどのように高めることができるかを示すものでした。

アルバニアとボスニア・ヘルツェゴビナは、この地域協力を新たに参加した国々です。両国は、進捗状況に関する最新情報を提供するとともに、組織能力の構築、森林火災の監視の改善、自然に基づく DRR 対策の実施において直面している課題について概要を説明しました。

北マケドニアの代表者は、西バルカン協カイニシアチブの枠組みの下で西バルカン諸国全体で実施されている各種プロジェクトの概要を紹介しました。さらに、2012 年以来、北マケドニアで実施されている複数のプロジェクトによる成果も紹介しました。発表のなかでは、地域共通の課題、必要な地域協力などに重点が置かれていました。

全体として、このセミナーは、対話のためのオープンなプラットフォームとしての役割を果たし、アイデア、戦略、教訓の共有を促進しました。

セミナーのハイライトは、コソボ南部の山間にある村、レストリツェへの現地視察でした。参加者はプロジェクトによって設置された雪崩防止林を視察し、植林と補助工が自然災害のリスク軽減と長期的な環境の持続性にどのように貢献するのかわかる、Eco-DRRの具体的な実践例を確認しました。

セミナーは、西バルカン諸国全体でより強靱なコミュニティを構築するために、協力、技術交流、共同学習を引き続き推進するという参加者全員の共通認識で幕を閉じました。



セミナー参加者のグループ写真



地域セミナー



レストリツェ訪問

NFFIS/MEFFISの拡張 - 地域別火災気象指数(FWI)



コソボとモンテネグロは、NFFIS および MEFFIS システムの拡張と、そのデータ品質の向上に精力的に取り組んでいます。これを受けて、本プロジェクトでは、協力の強化と国境を越えたデータの共有を目的とし、両国の水文気象機関間の調整を支援しました。両国は、NFFISの品質向上と、火災予防効果の向上につながる地域火災気象指数(FWI)の作成に向けて協力することで合意し、その覚書がプリズレンで開催された地域セミナーにおいて、締結されました。この覚書は、モンテネグロ水文気象・地震研究所(IHS)所長のドゥシカ・ブルノビッチ氏とコソボ水文気象学研究所(KHMI)所長のアルメンド・アグシ氏によって署名されました。



IHSとKHMIの理事によるMoUの署名

近い将来、両機関による合同会議が開催される予定です。この会議には、モンテネグロ保護救助局(RPD)、コソボ危機管理庁(EMA)、プロジェクトの主要組織、そしてシステム開発者が参加し、データ共有に関する技術的な詳細や、両国のシステム改善に向けたさらなる協力について協議・決定する予定です。

KolasinにおけるPR活動



コラシンにおいて、本プロジェクトは森林火災の影響を受けた地域の回復を目的に「火災跡地植生回復活動(PFVR)」を実施しています。これらの活動には、苗木の植栽、土壌侵食防止対策、天然更新補助作業(ANR)、および土壌の耕起等が含まれています。

本プロジェクトは2026年2月に終了します。そのため、継続的なモニタリングを実施する目的で、PFVR活動が行われた地域を管轄するプロジェクトのCPである森林・狩猟管理庁(FHGMA)のコラシン支局にモニタリング業務を移管することが決定されました。スムーズな移行を実現するため、明確で包括的な文書の整備が不可欠です。このため、FHGMAが将来的に適切かつ効率的なモニタリングを実施できるよう、標準作業手順書(SOP)を含む引継ぎ文書が作成されました。さらに、この引継ぎ文書は活動の評価手法についても記載されており、将来のPFVR技術システムの確立における参考資料として機能することが期待されています。

これらの活動に加え、DRRと環境意識の向上を促進する継続的な取り組みの一環として、プロジェクトは先日、活動地であるオチバ・ヒルに5つの新しい情報掲示板の設置を完了しました。



PFVR情報掲示板

成果毎の活動サマリー

コソボ 成果1

- NFFIS 拡張 (実施中)

コソボ 成果2

- 雪崩防止林のモニタリング
- 防風林活動の実施

モンテネグロ 成果1

- MEFFIS拡張 (実施中)

モンテネグロ 成果2

- Kolasin市のPFVRモニタリング



フォローしてください！

プロジェクト Facebook
<https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRProject>



コソボ内務省危機管理庁
Emergency Management
Agency (EMA)



モンテネグロ内務省
保護救助局
Rescue and
Protection
Directorate (RPD)



国際協力機構
Japan
International
Cooperation
Agency (JICA)